

学校経営の視点を取り入れた 知的障害教育の教育課程編成に関する取組

－「生活を切り開く人」の理念を実践知から検討するために－

加茂聡^{*1} 武井敦史^{*2} 望月千穂^{*1} 若月未来^{*1} 松本靖正^{*1}

(静岡大学教育学部附属特別支援学校^{*1}) (静岡大学大学院教育学研究科^{*2})

Efforts to organize curriculum for intellectual disability education incorporating the perspective of school management:

To examine the idea of “a person who opens up a life” from practical knowledge

Kamo Satoshi^{*1} Takei Atsushi^{*2} Mochizuki Chiho^{*1} Wakatsuki Mirai^{*1} Matsumoto Yasumasa^{*1}

要旨

本校では、これまで教育課程編成に取り組む中で、目指す児童生徒像である「生活を切り開く人」を検討してきた。本稿では、それらを基にしながも、「生活を切り開く人」の理念を指導場面へと落とし込むために、学校経営の視点を取り入れながら教育課程編成を行った実践を報告する。学校経営のやり方や手順等を示した実践はあるが、教員一人一人が実践知と重ね合わせながら協働的に学校づくりに取り組むような実践を積み上げていく必要があると考えた。具体的には、本校の重点を明確にすることや、普段の指導の中で「生活を切り開く人」の理念と教員の実践知を重ね合わせ検討していくことができることを目指して取り組んだ。取組の成果として教員の意識の変化が見られ、経営の視点を取り入れながら変化に柔軟なしなやかな組織を作り、教員一人一人の教育観等を交換していく過程を大切にいくことが教育課程編成において有効的であると見えてきた。

キーワード： 知的障害教育 教育課程編成 学校経営の視点

I. 問題の所在及び目的

1. これまでの本校の教育課程編成に関する取組

現行の学習指導要領では、社会に開かれた教育課程の考え方のもと、資質・能力の育成を目指す方向性が示されている。その中で、教育課程を中心に据えて様々な教育活動を組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくための中核的概念として「カリキュラム・マネジメント」を位置付けている。

著者たちが務めている附属特別支援学校（以下、本校）でも、子供の学びの視点から教育課程を見直していく取組をこれまで進めてきた（加茂ら, 2023）。本校の目指す児童生徒像である「生活を切り開く人」を検討していく中で、イメージ図を作成した（図1）。この図には、その時々「今」の自分として様々な事象に向き合い、自分の思いや願いを基にしながも子供自身が社会参画していく中で、自分自身の「健康」や「表現」等を形作っていく姿を大切にしていきたいという思いが込められている。学校として目指す方向性が見えてきた一方で、これらの目指す児童生徒像を、授業実践までつなげていくことが一つの課題として挙げられた。

2. これからの学校に求められる経営の視点

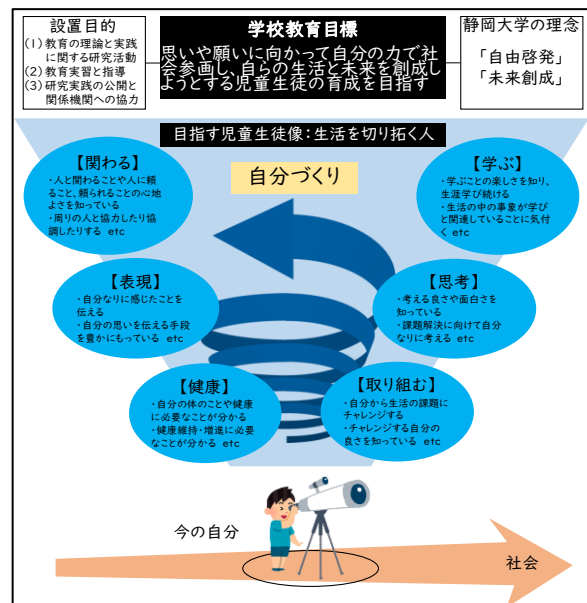


図1 目指す児童生徒像のイメージ図（※R5.11月更新）

いずれの学校においても教育目標や目指す児童生徒像をかかげ、グランドデザインを作成し教員の間で共有するように努力はしている。しかしながら、そのみで学校経営の視点をふまえた教育実践が展開される

と考えるのは安直にすぎる。

というのも、これらの教育目標等において示される教育像・子供像は多分に抽象的であり、これらを学校の教育活動において実現されていくためには、教員による目的の解釈や手立ての計画化、教育課程や方法の選択等のプロセスにおいて、理念や目標の具体化のあり方如何よるところが大きいからである。

その結果、学校の慣行的実践、主任等ミドルリーダーの考え方といった学校の文化的背景や教職員の異動、指導要領等の改訂といった学校環境の変動などによって形骸化してしまうことは少なくない。

一方で、今後の特別支援学校の必要を考えると、学校経営的な視点は欠かすことができない。

「社会に開かれた教育課程」の実現、「チームとしての学校」の具体化、「地域学校協働活動」の導入、各市町の特別支援学級や通級指導教室との連携などの施策にも反映されているように、個々の教育活動の充実のみでは、今後の社会における児童生徒の成長発達をサポートしていくには限界がある。

今後の変化の激しい社会における児童生徒の成長発達を支えていくためには、学校教育においても内外の多様性を含みこみつつ、相互に協力し合いながら学校の活動を展開していく必要があり、そのためには展開学校が組織として協働的に学校づくりに取り組む学校経営的な視点が不可欠であると考えられる。

3. 研究の目的

以上を踏まえると、学校経営の視点を取り入れ、「生活を切り開く人」の理念を教員一人一人の実践知と往還する中で理解を深めて検討していく過程を大事にして教育課程編成を進めていくことが大切であると考えた。

特別支援学校では、佐和田・城間（2019）もマネジメントの視点を取り入れていく必要性を主張しているが、カリキュラム・マネジメントのやり方や手順等の実践が多いのが現状だろう。今後の社会を見据えた学校経営の視点を取り入れた、教育課程編成の取組の実践を積み上げていく必要があると言える。

そこで、本稿では学校経営の視点を取り入れながら、本校の目指す児童生徒像である「生活を切り開く人」の理念を教員の実践知へとつなげながら進めていった教育課程編成の取組について報告する。

II 研究の経過

1. 「生活を切り開く人」を具体的な姿で捉える

まず、一人一人の実践知と結びつけるために大切になってくるものは、学校としての方向性を明確にする「重点化」である。

教育課程の中では、あれもこれもといった「網羅主義」ではなく、「看破する教育課程」という考え方がある（赤沢, 2017）。本校の現状を見ても目標が様々な



図2 意見交換している様子

階層で乱立しており、学校としてどのような方向性を目指すのか重点を明確にすることで、教育課程編成において教員一人一人のイメージの方向性を共有して進めることができると考えた。

これまでも本校では、「生活を切り開く人」を目指す児童生徒像として経営の中心において教育課程編成を進めてきた。今年度は、実際に現在担任している児童生徒の姿を思い浮かべながら、各学部に分かれ「生活を切り開く人」の具体的な姿を出し合った（図2）。

具体的な姿を出す手順としては、学年ごとに①「学年段階での『生活を切り開く人』の姿を付箋に書く」、②「付箋を出し合う」、③「指導形態の特徴を踏まえ、付箋を振り分ける」までを行い、学部内で④「各学年の姿の共有と学部の教育課程の柱の確認」をするようにした。

意見を出し合う中で使ったシートは、図3である。このシートを使用した理由としては、「生活を切り開く人」の理念を実践に結びつけていくために、具体的な姿を基にして学部の教育課程の柱となる指導形態への振り分けも合わせて行えるようにした。

知的障害教育の教育課程は、知的障害児の学習上の特性に応じるために、二重構造の形となっている。特性としては「学習で得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の生で生かすことが難しいこと」が挙げられ、抽象的な内容よりも実際の生活場面に即しながら継続的・段階的な指導や実際の具体的な指導、児童生徒の自信や主体的に取り組む態度を育む指導が重要である。そのため、指導内容を再編成し、指導形態として表すことができるようになっている。

この教育課程の二重構造を理解することが知的障害教育の教育課程編成では重要であることはもちろんだが、学部として出てきた具体的な目指す姿を実現するために教員一人一人が指導形態の選択に関わることで、より指導場面での具体的な取組につながると考えた。

意見交換の中で主に意見が多く出てきた姿を、表1に挙げる。これらの姿を中心にして、来年度の各学部の教育課程を検討していった。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「生活を切り開く人」の姿</div> <small>(自分の力で社会参画する、自分の生活や未来を創り出す)</small>			
各教科等を合わせた指導			
日常生活の指導	生活単元学習		作業学習
教科別・領域別の指導			
国語	社会	数学	理科
音楽	美術	保健体育	職業・家庭
外国語※	道徳	総合的な学習の時間	特別活動
自立活動			

図3 意見交換で活用したシート

学部	主な指導形態	主に出てきた具体的な姿
小学部	日常生活の指導 遊びの指導／生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びややりたいことを自分で決める 教師や友達と一緒にやろうとする 自分から活動の準備や係の活動をする 等
中学部	生活単元学習 作業学習	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力して一つの物事に向かう 自分の得意、苦手が分かる 自分自身だけでなく、誰かのために頑張って活動する 等
高等部	作業学習 職業科 自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の将来へ向けての思いやイメージを持っている 目標達成に向けて、仲間と協働する 社会参画の中で、自己理解、他者理解を深める 等

表1 主に意見が多くでた指導形態と姿の一部

小学部	中学部	高等部
身近な人やもののかかわりを広げ、夢中になって活動する児童を育てる	仲間との関わりを広げ、あこがれをもち目的に向かって活動する生徒を育てる	地域社会との関わりを広げ、やりがいをもって学び挑戦する生徒を育てる
遊びの指導／生単	作業学習	作業学習

図4 各学部段階と社会の広がり



図5 研修会の様子

(1) アンケートの比較

質問項目「本校の教育課程を作っていく上で、大切にしたいことは何ですか。」の結果を図6、7に示す。なお、テキストマイニングの分析図では、出現頻度の高い言葉が大きく表示される。

前年度の結果(図6)を見ると、教育課程に絡んで「系統的」「共通理解」「切り開く」「立ち返る」などの言葉が多く回答として出てきた。

今年度の結果(図7)を見ると、教育課程に絡んで「児童生徒」「必然性」「12年間」「つながり」などの言葉が多く回答として出てきた。

前年度と今年度のアンケート結果を比べ、共通している言葉や特に特徴的に使われていた言葉の分類の詳細を、図8に示す。

この比較から教員の意識の変化を見ていくと、前年度は教育課程編成を行う際には系統性をもってどのように目指す児童生徒像を実現するかといった、「教員側の視点」が多く出ていたと考えられる。しかし、今年度の結果を見ると、学校経営の視点を入れながら教育課程編成を行ってきたことで、「学ぶ子供側の視点」が出てきている。さらにどのように必然性をもって子供自身が学んでいくのかといった「学習場面」にまでを想定できるようになっていることや12年間の「つながり」の中で子供の学びをつなごうとする意識が見られていることが考えられる。つまり、教員がカリキュラムの2つの側面を捉えながら、目指す児童生徒像である「生活を切り開く人」を中心にして、12年間の学びのつながりを踏まえつつ自分自身の指導の中に落とし込んで考えている様子が見られた。

(2) 学校経営の視点の重要性

教員の中で上述したような意識の変化が見られた理由として、やはり学校経営の視点がある。さらに、この学校経営の視点が固定的な組織づくりではなく、変化に対応できる柔軟でしなやかな組織づくりを目指しており、理念と教員自身の実践知を往還しながら教育課程編成を行うことができたからこそその成果であると考えられる。

実際、第一著者自身も教育課程編成に取り組もうと考えた際に、学校として目指す方向性をきっちりと定まったグランドデザインやみんなが共通理解した児童生徒像の姿を出さなくてはならないと感じていた。しかし、学校経営の視点を取り入れ進めていくことで、一つの完成したものを作り上げる結果を重視するよりも、重点を置きながら皆で同じ方向性を向きながらも、実践の中で一人一人が考え、その実践知を基にした教育観や指導観を出し合っていく過程こそが大切であると実感した。

教育課程編成において、学校経営の視点を取り入れた取組の有効性が見えてきた。

2. 今後の課題

今年度の成果を踏まえながら、以下2点のことに取り組んでいきたい。

1点目は、まずは取組を継続し、「生活を切り開く人」の姿を実践の中で検討し深めていくことである。今後も経営的視点を取り入れながら、教員一人一人の指導観や教育観を交換する過程を大切にしながら進めていきたい。

2点目は、「生活を切り開く人」の実現に向けて、児童生徒自身が自身の学びの意義を実感できるようにしていくことである。菊地(2023)は、各教科等を合わせた指導を中心とした特別支援学校の教育課程の価値を踏まえながらも、児童生徒が自身の学びのつながりや成長を意識化するためのキャリア・パスポートの活用による対話の充実や学びの土台としての教育課程に関する組織的な実践研究の必要性を指摘している。教育課程編成の中でも子供の学びの視点から年間指導計画の見直しにつなげていくことや具体的に子供の学びを学校としてつなげていく具体的な仕組みづくりに取り組んでいきたい。

参考文献

- 赤沢早人(2017)第5章「カリキュラム・マネジメント」で学校を変える、「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり,吉富芳正編著,ぎょうせい,71-88.
- 加茂聡・勝又賢一・市川夢太・望月千穂・武井敦史(2023)知的障害教育におけるトータルな教育力のある教育課程の実現に向けた取り組み:子供たちの学びの視点から教育課程を見直す,静岡大学教育実践総合センター紀要,33,240-245.
- 菊地一文(2023)これからの各教科等を合わせた指導,特別支援教育研究,全日本特別支援教育研究連盟編集,東洋館出版社,28-31.
- 佐和田聡・城間園子(2019)特別支援学校における学校組織マネジメントを活かした学校経営1,高度教職実践専攻(教職大学院)紀要,3,159-164.
- 中央教育審議会(2016)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申)。

執筆分担

- 加茂聡:第I章1・3、第II章、第III章
武井敦史:第I章2